

## 「山本八重から新島八重へ」 牧師 望月 達朗

主の年、2013年を迎えました。いよいよ、1月6日からNHK大河ドラマ『八重の桜』がスタートします。キリスト教宣教師であり、同志社創立者でもある「新島襄」の妻「八重」の歩みが描かれていきます。間接的なかわりて言いますと、八重の葬儀の告別説教をした山室軍平（同志社大中退、日本救世軍創設者）は、吾妻教会献堂式（1917年）のために招かれています。また、明らかになっている範囲で、八重は4回安中市を訪れているようですが、その内1888年の夏には新島襄と二人で、約2ヶ月間、伊香保温泉（木暮旅館と千明仁泉亭）で避暑したことが分かっています。歴史的にも、地理的にもそう遠くない存在です。しかし、何より一番身近に感じられるのは、八重がキリスト者であったということでしょう。

ドラマでは、「山本八重」（前編）としての姿と「新島八重」（後編）としての姿に分けて描かれる予定です。この名前の変化には、会津戊辰戦争で、スペンサー銃を持って籠城する“幕末のジャンヌ・ダルク”「山本八重」から、新島襄や聖書の世界と出会い、キリスト教教育や看護活動を始める「新島八重」への変化が見られます。実は、新島襄も、脱国や留学、帰国の過程で「七五三」「Joseph Neesima」「新島襄」と名前を変え、それと共に一人の安中藩士（サムライ）から信仰者へと歩みが変わられていきました。

聖書の登場人物にも、名前の変化が見られます。例えば創世記では「アブラム」が「アブラハム」に、「サライ」が「サラ」に、「ヤコブ」が「イスラエル」に変わります。また、福音書ではイエスの弟子「シモン」が「ペトロ」へと変わります。これらの名称変更はすべて、神やイエスとの関係性が新たにされていく時に起こっています。そして、その名前の変化が、自分達からではなく、神やイエスから言い渡されていることに大切な意味があると感じます。

私達は、変わりたいと思っても変わらないことが殆どです。けれど、「変え

られる」ことはよく有ります。小原信さん（青山学院大学教授）の言葉を借りれば、「自分史」とは「自慢史」ではなく、「自分変化史」です。「自分で何をなせたか」というよりも、これまでの歩みのなかで「変えられたこと、分かったこと」を思い起し、語るのです。これならば、誰にでも語れる事柄であり、より「私がどんな人間か」が自分にも相手にも伝わります。またその変化は、自分の力を超えて与えられた神の恵みを語ることにもつながっています。

山室軍平は、八重の告別式の説教のなかで、亡くなる3ヶ月前の八重の様子をこう語っています。「神の恵みのかたじけなきことの数々語り出て、幾度か『感謝』『感謝』といふて居られ（中略）、ひたすら天国の栄を望んでおられる有様に敬服した」。今年もまた、神の不思議な導きのなかで新たに「変えられていく」恵みを数えていきましょう。



## ～2012年吾妻教会チャリティ・バザー報告～

吾妻教会チャリティ・バザーが、2012年11月11日（日）午後1時～午後3時に行われました。当日は雨の降る寒い一日でしたが、近隣の方々がお越しくださり、交わりを持つことが出来ました。今年度のバザー収益は、116,285円でした。収益金は、福祉施設「いわびつ荘」、「山鳩学園」、「オリジンの村」、被災支援「シャローム石巻」に献金させていただきます。

今年は来てくださった方にアンケートをお願い致しました。貴重なご意見・ご感想をいただきましたので、ご紹介いたします。

# バザーアンケート集計結果

**来場者** ※アンケート合計6

★バザー開催を知られたきっかけは何でしたか？

- ・知り合いから聞いて（3）
- ・チラシを見て（2）
- ・看板を見て（1）

★本日のバザーのご感想をお書きください。

- ・子どもが欲しがっていた本が買えたり、手作りの作品などもあってよかったです。
- ・毎年楽しみにしています。（2）
- ・安かった！ ・とても楽しかったです！

★教会バザーへのご要望、ご意見がございましたら、お書きください。

- ・毎年楽しみにしていますので、よろしくお願い致します。

**教会員の感想** ※一部抜粋

<準備について>

- ・値付けをする時、「前例表」があつて助かった。定番商品の値段は決めてしまつてもよいのではないかな。

<献品・品物について>

- ・献品の方法を考えて見る方がよい。（2）
- ・「献品を集めて売る」から、「作った物を売る」へシフトしては？

<全体について>

- ・来客数が減少していることが気になる。
- ・各売り場で、売り方の工夫をした方がよい。（ビラを作るなど）
- ・雨の場合の配置をもう一度考えておいた方がよい。
- ・バザーの取り組みを通年を通して行う体制を作った方がよいのではないかな。
- ・「教会ならではのバザー」が出来るとよい。手作り製品を作るとか、ミニコンサートやDVD上映スペースを作るとか。準備が大変であれば、バザーを2年に1度にするという方法もあるかと思う。

◆いただいたご意見を参考に、次年度バザーにむけて備えて参りたいと思います。皆様、バザーのご協力、お支えを心より感謝申し上げます。

## =特別伝道集会 ご案内=



### 「八重の桜だより

### ～ハンサムに生きる新島襄と八重～」

日 時： 2013年2月3日（日）

午後1時30分～3時30分

会 場： 日本キリスト教団 吾妻教会

講 師： 本井 康博先生（同志社大学神学部教授）



#### 講師プロフィール

同志社大学神学部教授。神学博士。専攻は、日本プロテスタント史（同志社史・新島襄研究）。同志社新島研究会代表で、これまで「新島研究功績賞」（2回）、「新島研究論文賞」（1回）を受賞。著編著は約50冊。新島八重に関しては、八重マンガ（集英社）の監修、『ハンサムに生きる』、『新島八重と夫、襄』（共著）、『日本の元気印・新島八重』、『八重さん、お乗りになりますか』を出版。

★みなさま、ぜひご予約ください。ご家族ご友人をお誘いください。★



日本キリスト教団 吾妻教会（創立1889年5月7日）

〒377-0801 群馬県吾妻郡東吾妻町原町444-9

主任牧師 望月 達朗

TEL.0279-68-4730

<http://www5.ocn.ne.jp/~agatu-ch/>

牧 師 望月 奈津子